

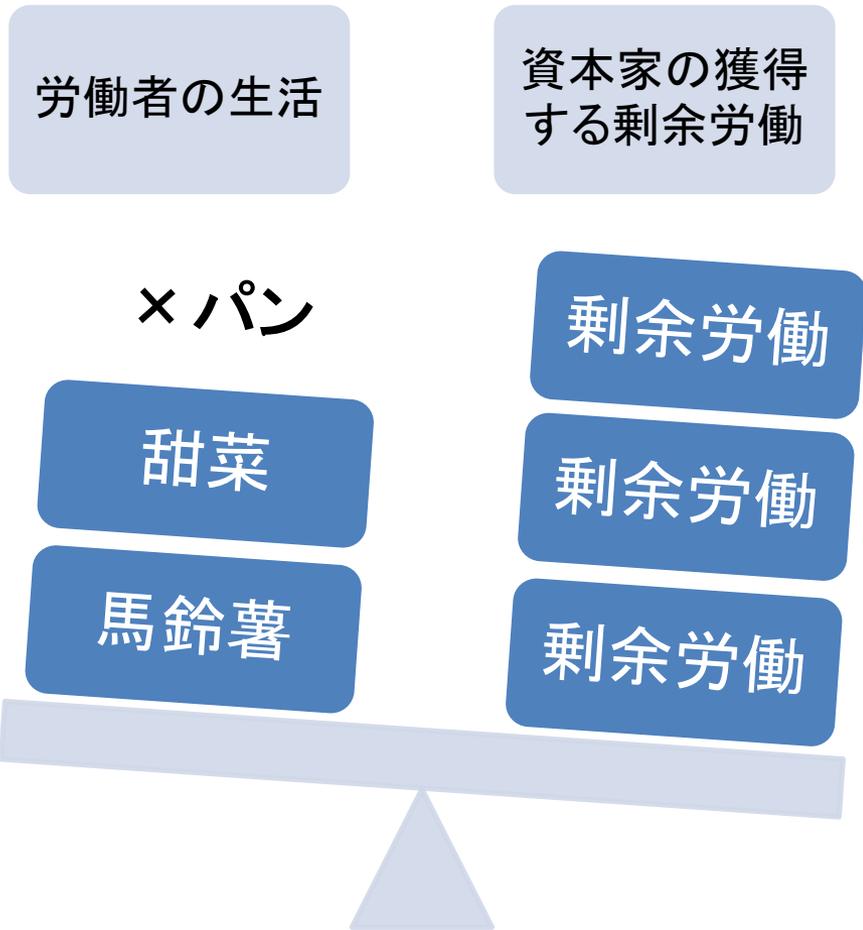
第二卷 資本の流通過程

【序文】エンゲルス

- 『国民的苦難の根源と救済。ロード・ジョン・ラッセルへの書簡』

「剰余生産物または資本の所有者」

—「何が資本家のものになるにしても」、「資本家は、つねに労働者の剰余労働を獲得しうるのみである。労働者も食っていかなければならないからである。」(「資本論(四)」岩波文庫(以下同じ) p.23)



第二卷 資本の流通過程

【序文】エンゲルス

- 『人類の幸福にもっとも有益な富の分配原理の研究』(ウィリアム・トムソン)
 - 「われわれが社会と呼ぶものの不断の努力は、詐欺または説得、脅迫または強制によって、生産的労働者に、彼自身の労働の生産物の能うかぎり小さい部分を代償として、労働を行わせることにある」「なにゆえ労働者は、彼の労働の生産物の無制限な全体を受け取ってはならないのか？」(p.27)

第二卷 資本の流通過程

【序文】エンゲルス

- マルクスの「剰余価値理論」
 - ここで肝要なのは、一経済的事実の単なる確認でもなければ、この事実と永遠の正義および真の道徳との衝突でもなく、全経済学を変革すべき使命をもつ、そして全資本主義的生産の理解のための鍵を使い方の心得ある者に提供する、一つの実

マルクス以前

マルクスの研究

剰余価値
(生産物価値部分)

労働力
(価値創造的な性質)

・不変資本
・可変資本

取得者によって等価を支払われな
かった労働の生産物から成る

第一篇 資本の諸変態とそれらの循環

第一章 貨幣資本の循環

【第一段階】

労働市場 ※売られる前には生産手段から分離されて存在

G
(貨幣)

—

W
(商品)

<

A (労働力)

Pm (生産手段)

商品市場

※生産手段の量が、労働量を吸収するのに、この労働量によって生産物に転化されるのに、充分でなければならない。



生産手段が十分に存在しないなら、余分の労働は、利用されえない。

第一篇 資本の諸変態とそれらの循環

第一章 貨幣資本の循環

【第二段階】

生産資本の機能

労働は労働過程においてのみ実現される。

賃金労働者の自己保存
※日々の消費を必要とする
※商品が買われうる形態で存在

資本家は労働者を、再び商品として売ることはできない、労働者は彼の奴隷ではないからである。



貨幣所有者であることが前提



商品生産者であることが前提

資本流通
の中断
生産部面へ

第一段階の結果は、
第二段階の
資本の生産段階の開始

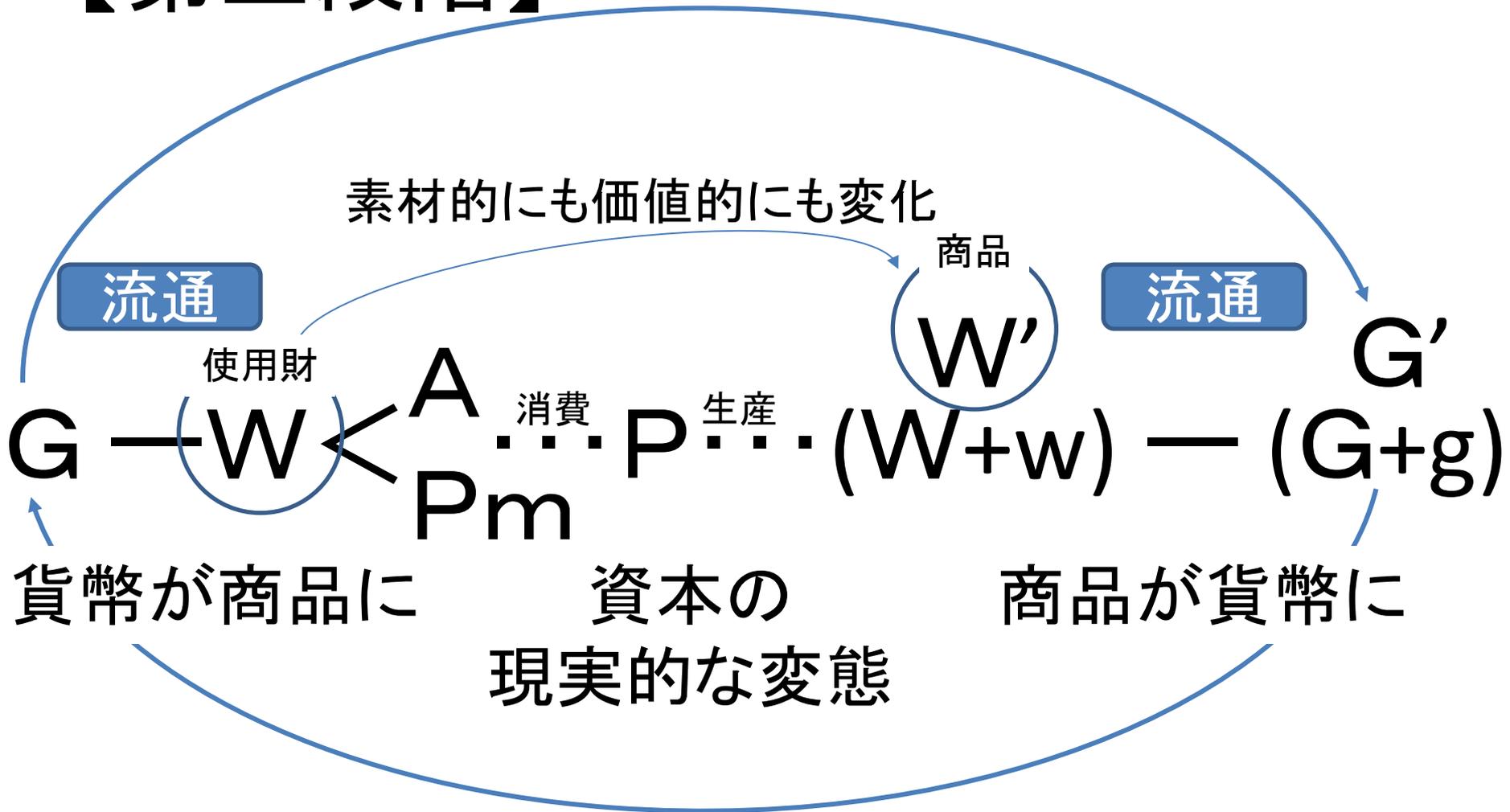
(生産資本の
価値)

(剰余価値)

第一篇 資本の諸変態とそれらの循環

第一章 貨幣資本の循環

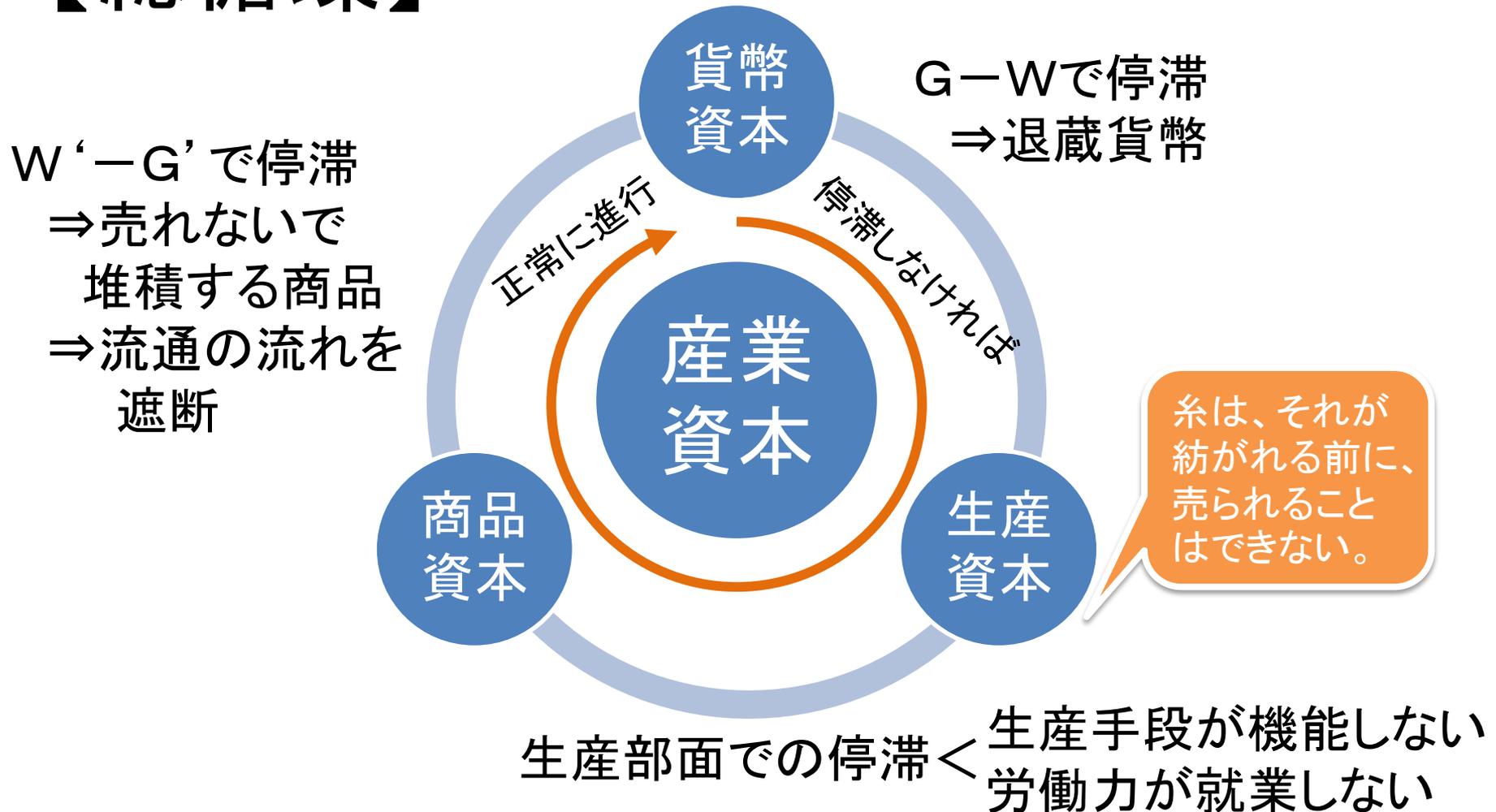
【第三段階】



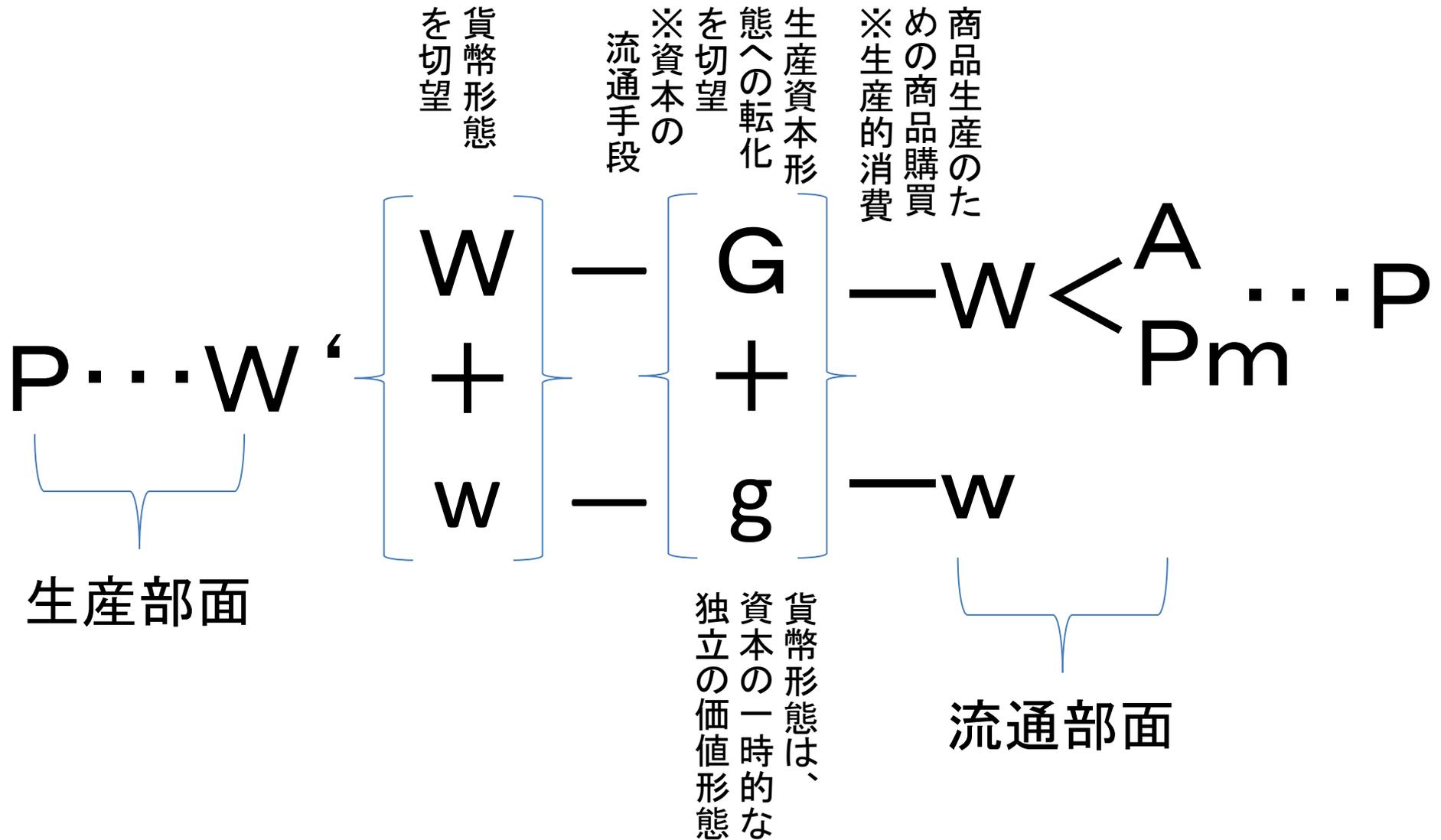
第一篇 資本の諸変態とそれらの循環

第一章 貨幣資本の循環

【総循環】



第二章 生産資本の循環



第三章 商品資本の循環

$W' - G' - W \cdots P \cdots W'$

第四章 循環過程の三つの形

I. $G \text{ — } W \cdots P \cdots W' \text{ — } G'$

II. $P \cdots C_k \cdots P$

III. $C_k \cdots P(W)$

C_k : 総流通過程

共通: 価値の増殖 (規定的目的・推進的動機)